

中越盲啞学校と宮川文平

佐藤 聖（新潟県長岡市）

現在、新潟県長岡市に、約百年の歴史を有する聾学校がある。（新潟県立長岡聾学校）しかし、長岡市から約 25 k m のところに中越盲啞学校（1908-1923）が実在した史実を知っている人々はほとんどいない。明治・大正時代の聾教育に関する資料に「中越盲啞学校」が度々登場していることに興味を持った。でも、その所在地は新潟県刈羽郡柏崎町（現在の柏崎市）しか書いてありませんでした。調査は難航した。資料・時間等の制約があったが、調査を通して判明したことを報告する。

<宮川文平（みやがわぶんぺい）の生涯>

宮川文平は 1861（文久元）年 5 月 18 日に大洲村（現在の柏崎市）中浜に生まれた。父・宮川赴庵（きゅうあん）の七人兄弟の長男。医者になる為に上京して学んだ。その後、静岡県で働いた。

1892（明治 25）年、帰郷して柏崎で最初の眼科医院を開業した。

1898（明治 31）年、私財を投じて弟・久平と共に「赴庵産婆講習所」を開設した。西洋式助産婦術の教育を始めた。

1900（明治 33）年「柏崎産婆学校」と改称し、弟・久平に任せる。「宮川産婆学校」と呼称されていたが、1950（昭和 25）年の入学生を最後に閉校、その後看護婦養成が行われている。

1896（明治 29）年、全国的に赤痢が流行した。臨時看護婦養成を県から依頼され、速成の教育講習を行った。この臨時看護婦養成は、大正、昭和と宮川重平（弟・久平の子息）から宮川糧平（弟・久平の孫、甥・重平の子息）と代々継承され、現在の柏崎准看護学校に受け継がれている。

1915（大正 4）年トラホーム流行の時も、県の協力を得て眼科医として検診と治療に献身的に活躍している。

1915（大正 4）年から 2 期 8 年にわたり県会議員（刈羽郡区）として活躍した。任期：1915（大正 4）年 9 月 25 日～1923（大正 12）年 9 月 24 日。地域の衛生問題、柏崎築港の完成にも尽力している。

1931（昭和 6）年 9 月 17 日に逝去。享年 70 歳。墓は妙智寺（柏崎市）にある。

<盲人教育開始>

1906（明治 39）年、刈羽鍼灸治療組合が盲人に教育を始めた。指導は、宮川兄弟が中心となった。

<中越盲啞学校設立>

1908（明治 41）年、中越盲啞学校を創設し、認可された。校舎は妙行寺山内の七面堂であった。

校長は宮川文平、教師は姉崎惣十郎、平野藤太郎。助手一名であった。当時は盲人のみを入学させたが、1911（明治 44）年、ろう者も入学させている。校舎は 2 回移転している。その位置は、妙行寺より半径 1 k m のところに集中している。

【参考】

高田盲学校…明治 24 年。長岡聾学校…明治 38 年。新潟盲学校…明治 40 年。新潟聾学校…昭和 2 年。

「私立中越盲啞学校一覧表」によれば、生徒数は男 3 名、女 1 名計 4 名となっている。12 歳児、16 歳児

2名、17歳児。学科は普通科、技芸科。

「大正五年四月末 内国聾啞学校一覧表」によれば、生徒数は男4名、女2名計6名となっている。敷地は75坪。(校舎は27坪、寄宿舎は23坪。)学科は普通科、図画科、裁縫科。

「大正十一年十一月現在 内国盲学校並盲啞学校一覧表」によれば、生徒数は男20名、女15名計35名となっている。敷地は75坪。(校舎は54坪、寄宿舎は23坪。)学科は普通科、技芸科。

<中越盲啞学校廃校>

1923(大正12)年、政府より盲聾学校令が発令された。中越盲啞学校は廃校となっている。その経緯を現在、慎重に鋭意調査中。

<今後の課題>

授業の方法・様子、卒業生の動向等について調査しなければならないことが山積している。

<最後に>

柏崎ふるさと人物館の桑山省吾さん・池田孝博さん、柏崎市ろうあ者福祉協会の木村佳史さん・美津さん、手話通訳をして下さった松田幸男さんに本当にお世話になりました。心からお礼を申し上げます。

<参考文献>

大正五年四月末 内国聾啞学校一覧表

大正十一年十一月現在 内国盲学校並盲啞学校一覧表

新潟県教育史 下巻

新潟県教育百年史 明治編

新潟県教育百年史 大正昭和前期編

新潟縣議會史 大正篇

全国寺院名鑑 中部篇

私立中越盲啞学校記事

私立中越盲啞学校一覧表

柏崎の先人たち 柏崎・刈羽の人物誌

柏崎日報